

平成三年三月

蟹江町歴史民俗資料館

# 年報

第十一冊

目次

一、「沿革誌」より	1
二、事業概要	2
三、資料の収集・保管	3
四、展示	27
五、調査・研究	29
六、情報提供	31
七、教育普及	32
八、庶務報告	50
九、文化財保護	51
公開講座要約―江戸時代の女性	54
文化財研修会資料	左1

## 公開講座要約

### 江戸時代の女性

講師 林 董一

結論から言いますと、江戸時代それ以前の戦国時代の女性は、男の道具・政略の道具になっていて哀なものようである。非常に哀で虐待され、男の自由気儘なものであったように思われるが、ある意味では、女性の地位は低いものでなく、むしろ高かった事もある、そして、非常に逞ましく、忍耐強く、強く生きていた。

江戸時代の將軍は、一体だれがどういう形で決めたのか、春日局は竹千代、国千代二人の子がいて、国千代を將軍にと言う声があったので、これは大變と、家康に頼んで竹千代を將軍にしたように、次期の將軍を決めるのに御台所が大きな発言権を持っていた。

江戸城の機構から考えると、江戸城は大きく分けて三つに分けられる。一つは「表」これは將軍が政治をとる所、老中が政治をとる所、公式な所である。次は「中奥」となっていて、將軍が休む所、次は「大奥」御台所が住

んでいる所「表」「中奥」には女性はいっさい入れない、「大奥」は男性は絶対入れない。男は將軍とお医者さんだけだが、一ヶ月に一回老中が「大奥」を見廻りに入る事が出来た。「大奥」の女中は五百人位おり、一番下の位の人を「お末」と言って、十三才から十四才位で旗本の娘か、御家人の娘が奉行に上がり、朝早く午前二時頃から掃除を始め、四時間位掃除をする、そして年寄が検査をする。年寄の定員は六名、その内將軍付三名、御台所付三名、年寄は非常に強い権力を持っていた。年寄は老中と同格であり、女性でも年寄の地位は凄いものであった。

將軍は誰が決めるか、公式に言うとな老中が決めるが、老中五・六名が御用部屋に集って協議する。その時、話をする時聞えるし、紙に書く時後で残るから、灰の上に火箸で書く。すぐ消せば後に残らない。それくらい秘密がたもたれた。幕閣が公式に決める。それには將軍の意向も入り、御三家の意見も入る。しかし、これは公式な事であり、事実は陰で御台所が中心となって年寄と話し